

序

日本鉄鋼協会は、鉄および鋼に関する学術技術などの問題を研究調査し、わが国における鉄鋼業の振興発達を期するという目的の下に設立された団体であつて、大正4年2月に発足してから年々活発な歩みが続けて無事1世紀の半ばを経過し、本年をもつて創立50周年を迎えることとなつた。この間協会は終始その目的達成のため努力精進を続け、わが国鉄鋼業の進歩に寄与するところ少なからぬものがあつた。また協会の発展に伴い今や会員数も1万名に垂んとし、年間所要経費も1億円を超える大学会に成長して、国内においてはもとより海外諸国からも、鉄鋼の学術および技術に関してはわが国における最も権威ある団体として認められるに至つたことはご同慶の至りである。しかしながら過去50年の推移をかえりみると、その発展の経路は必ずしも坦々たる大道のみではなかつた。ことにわれわれ国民がかつて経験したことのない敗戦という厳粛な事実と直面しては、国民全般が深刻な影響を受けたことはもとよりであるが、わが協会においても非常な困難に遭遇し、その運営はまことに容易ならぬものがあつた。幸いにして戦後各方面の立直りは意外に早く、ことに鉄鋼業界の復興進展は真に目覚ましいものであり、今やわが国は世界屈指の一大製鉄国に進展することを得た。かかる状況に伴つて協会も一時の頹勢を挽回し得たばかりでなく、さらに拡大強化の途を辿つて今日の盛大を見るに至つたのであるが、この間に対処して先輩各位の払われた苦心努力は推察するにあまりあり、まことに感謝に堪えぬ次第である。

思うに、わが国の基幹産業とも申すべき鉄鋼業を今後一層振興発展させるための要件は多々あるであろうが、なかんずく学術技術の研究開発に待つところはなほ大であるといわなければならない。今やわが国の鉄鋼技術は世界的水準に達したといわれているが、従来先進諸国の指導もしくは模倣によるものが多く、今なお年々少なからぬ技術導入を見つつある状態である。今後鉄鋼業の一層堅実な発展を期するためには、技術導入必ずしも不可とはしないが、さらに独自の技術の育成を計り、または諸外国と提携協力してその開発を進めて行かねばならぬものと信ずる。ここにおいて鉄鋼技術の研究開発を主たる目的として設立された本会の使命はますます重く、われわれの責任はいよいよ大なることを痛感し協会の事業推進のため会員諸君とともに一層精進努力したいと念願する次第である。

このたび創立50周年を迎えるに当たり、記念事業の一つとして「日本鉄鋼協会50年史」編集の企てがあり、これがため特に編集委員会を設けてその推進に当つたが、編集委員諸君の携まざる努力により首尾よくその完成を見ることができた。その内容とするところは、協会の事業と最も密接な関係にある鉄鋼業界ならびに学界の経緯を明らかにするとともに、協会の機構および事業の推移を詳らかにし、一読して過去50年にわたる鉄鋼界の動静を把握するに足るものと信ずる。

先に記念事業の一環として編集した「鉄鋼技術の進歩」は、“鉄と鋼”50周年記念特集号(Vol. 51, No. 3, 1965)として発行し、会員諸君の閲覧に供したのであるが、「日本鉄鋼協会50年史」は便宜上単独の小冊子に作成し、50周年祝賀式典の参加者ならびに一部関係方面に配布したのみであつた。その後、当日祝賀式典に参加し得なかつた会員諸君からの強い要望があり、50年史の全内容を本誌第1部に再録し、会員諸君に頒つこととしたものである。

次に、本誌第2部として「50周年記念行事」を集録した。協会においては輝かしい50周年を記念するために、昭和38年9月に50周年記念事業準備委員会を設けてより、年余にわたり鋭意準備の作業を進め本年4月の初頭を期し、盛大な祝賀式典を挙げ、なお一連の記念行事を完遂することを得た。祝賀式典に際しては、内は佐藤内閣総理大臣を初め朝野各界の多数の名士、外は世界13カ国の学界業界の首脳者50余名の来賓を迎えて、いとも厳粛に行なわれ、これに続く幾多の記念行事もまたこれに相応しく盛会

裡に実施されたのである。よつてここにその委細を会員諸君に報告するとともに、永くその記録を後世に残すために集録してここに収めたものである。

会員諸君におかれては、本誌編集の趣旨を十分諒とせられ、一読の労を惜しまざるとともに、本会発展のため今後一層の協力を賜わらんことをお願いする次第である。

最後に、50周年記念事業推進に關しご尽力下さつた50周年記念事業準備委員会の委員各位、ならびに關係各方面に対し深甚なる謝意を表するとともに、執筆者各位に深く御礼申し上げます。

昭和40年7月

社団法人 日本鉄鋼協会
会 長 湯 川 正 夫

50周年記念事業準備委員会

委 員 長	湯川 正夫				
副 委 員 長	作井 誠太	芹沢 正雄			
委 員	伊木 常世	今井勇之進	梅根 英二	奥村 虎雄	
	桂 寛一郎	川村 宏矣	木寺 淳	木下 亨	
	五弓 勇雄	雀部 高雄	佐藤 忠雄	佐野 幸吉	
	辻畑 敬治	永石 六雄	長谷川正義	深堀 佐市	
	不破 祐	三井 太倍	村田 巖	山本 信公	

50周年記念出版事業編集委員会

編集委員長	佐藤 忠雄				
理 事	茨木 正雄	大浜 侃	雀部 高雄	田畑新太郎	
	辻畑 敬治	長谷川正義			
常務委員	内山 道良	梶山 正孝	松下 幸雄		
委 員	阿部 秀夫	荒木 透	安生 浩	池田 義孝	
	加藤 健	菊地 敏治	草川 隆次	小犬丸胤男	
	澤 繁樹	城野 邦正	周藤 悦郎	高橋 俊雄	
	中川 龍一	中野 弘一	中村 正久	中山 忠行	
	原 善四郎	藤田 利夫	堀川 一男	前田 一徳	
	若松 茂雄	山木 正義			